

(令和7年度中実績・令和8年度評価)

【大項目評価点】
S：特筆すべき進捗状況
A：計画どおり
B：おおむね計画どおり
C：やや遅れている
D：重大な改善事項あり

【小項目評価点】
V：計画を大幅に上回って実施している
IV：計画を上回って実施している
III：計画を順調に実施している
II：計画を十分実施できていない
I：計画を大幅に下回っている

【小項目評価（V～I）の大項目評価（S～D）への反映の考え方】
●小項目について、おおむねⅢの評価であれば、大項目はB評価を基本とする。
●大項目について、B以外の評価を行う場合は、小項目の評価でⅣ以上の高評価・Ⅱ以下の低評価となっている項目について、単に項目数ではなく、項目ごとの内容の中期目標での重要性等を考慮し、総合的に判断の上、その理由を示す。

大項目（中期目標より）				小項目（R7年度計画より）				評価委員会意見
番号	内容	評価	評価の理由	番号	内容	法人評価	市長評価	
1	住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 動物展示の充実と快適な園内環境の創出による天王寺動物園の魅力向上	S	・複数の希少動物の導入に加え、アジアゾウ3頭の導入を達成したことで、園の魅力向上に大きく貢献した。 ・JAZA（日本動物園水族館協会）の個体群管理計画に基づく種別管理等を受嘱するなど、他園との信頼構築に努めている。 ・昨年度に引き続き開園110周年イベントを実施したほか、大阪・関西万博と関連した取組や積極的な広報活動を行うことで、園の魅力発信、サービスの充実に意欲的に取り組んだ。 ・ファンクラブについては、各種イベントで宣伝するなど、認知向上に取り組んだほか、ガチャ付き入園券といった新たな取組を開始したこと加入者増につながった。 ・園内巡視や来園者の声を反映した美観保持に努めることで、来園者から高い満足度を獲得した。 ・上記より特筆すべき進捗状況であることからS評価とする。	1	コレクション計画に基づく新規希少動物の導入に向けて国内外他園等と調整を図る。	V	V	
				2	JAZAの種別管理者、専門技術員及び部員としての受嘱を継続し、個体群管理計画に連携して取り組み、展示動物の充実へ繋がるよう取り組む。	III	III	
				3	JAZA、WAZAの各種研究会等へ積極的に参加し、得られた情報を速やかに共有し、飼育技術向上を図る。	III	III	
				4	これまでのイベントの検証結果を踏まえ、今後のイベントのさらなる魅力向上（学習効果・集客力・リピーター増）に繋げる。 また、110周年イベントを引き続き実施する。	IV	IV	
				5	継続してファンクラブ募集に取り組むほか、法人ファンクラブについては営業戦略に基づく渉外営業を実施し、全体として前年度を超える会員数を目指す。	IV	IV	
				6	ホームページの充実、番組企画やロケーションの積極的な受け入れを行い生物多様性の保全に関する理解に繋げるとともに、HP・SNSの閲覧実績やコメントの内容等を分析し、ニーズに合った情報発信を行う。	III	III	

1	住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	1	動物展示の充実と快適な園内環境の創出による天王寺動物園の魅力向上	S	7	引き続き、ホスピタリティマインド醸成に関する方針に基づく取組（研修、研修効果定着のための取組など、研修効果チェック）を体系的に実施する。	Ⅲ	Ⅲ	
					8	定期点検に加え、職員による日常点検や来園者の声を踏まえた美観保持に取り組む。	Ⅲ	Ⅲ	
					9	「園内掲示物整備アクションプログラム」に基づく園内掲示物の点検及び更新を行うほか、リニューアル獣舎についても統一感のある掲示物を作成する。	Ⅲ	Ⅲ	
					10	令和7年度完成予定の施設（ホッキョクグマ舎、アジアの森）について、ユニバーサルな観覧環境に配慮した整備を実施する。	Ⅲ	Ⅲ	
					11	来園者の声を分析し園運営の改善に取り組む。（HP・SNS含む。）	Ⅲ	Ⅲ	
					12	大阪・関西万博の広報に協力するとともに、万博開催を機に当園に訪れた国内外のお客様に対する「おもてなし」を実施する。	Ⅲ	Ⅲ	
	2	動物の生態等に関する理解や関心を深めるための教育活動の推進	B	13	おやつ・ごはんタイムの内容について再検討し、動物の生態等に関する理解や関心を深めてもらえるよう改善する。	Ⅲ	Ⅲ	項目全般（行動変容） ・中期目標において、教育普及活動の成果に「行動変容」を掲げているが、「意識変容」よりも把握の難易度が高い。実際の活動とミスマッチとならぬよう、目標や成果の確認手法について検討が必要である。	
				14	令和6年度のアンケート結果を基に課題を抽出し、「教育普及アクションプラン」に基づいたメニューやその内容について、改善を図り、より高い教育効果へつなげる。	Ⅲ	Ⅲ		
				15	「天王寺動物園ボランティアクラブ1915」の活動機会を増やす。また、NPO法人や学校・企業等と連携したイベントを実施することで来園者の学習機会を増やす。	Ⅲ	Ⅲ		
	3	動物福祉に配慮した飼育管理と高度な飼育技術の確立	A	16	令和5年度に起きた動物の逸走事故を踏まえ、獣舎整備の際、逸走防止の観点を重視した確認を徹底するとともに、ヒヤリハットについては即時記録、即時共有を図り、安全衛生委員会での共有を図る。	Ⅲ	Ⅲ	項目16（ヒヤリハット） ・ヒヤリハット事例の報告及び共有を強化しているのは良いことだが、報告だけで満足することなく根本要因の減少に向けた取組を進めてほしい。 項目17（環境エンリッチメント・ハズバンダリートレーニング） ・取組の幅を広げ、様々なチャレンジをしていることは評価するが、対象種の数値目標に偏重することなく、効果の検証など、動物福祉の向上に重心をおいて進めてほしい。 項目19（リニューアル工事） ・獣舎の整備は遅れることが多い中で、目標とおりではあるが、工期内で整備が完了したというのは法人の努力があつてのものとする。	
				17	「環境エンリッチメントおよびハズバンダリートレーニング取り組み方針」で定めた取組み種について、トレーニング実施種を37種から目標種数である40種（実施率100%）を目指す。また、環境エンリッチメント、ハズバンダリートレーニングともに量的評価だけではなく、対象個体の行動レパトリーの評価等、質的評価の導入を検討し、飼育動物の生活の質向上を進めるとともに、実施職員の増加により技術向上に努める。	Ⅳ	Ⅳ		
				18	令和6年度策定した「（仮称）新病院・研究棟／調理場 整備事業 基本構想」を踏まえ、基本計画を策定する。	Ⅲ	Ⅲ		
				19	第一期リニューアル整備事業におけるアジアの森ゾーン（拡張）及びホッキョクグマ舎を完成させる。	Ⅲ	Ⅲ		
				20	既存獣舎の点検・補修について、維持管理計画に基づき実施するとともに、動物福祉の観点にも考慮し必要な小規模な改修を計画的に実施する。	Ⅲ	Ⅲ		

1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	4	繁殖及び調査研究活動の推進	A		21	繁殖推進種ごとに新たな繁殖推進種における環境整備項目（チェックポイント）を設定し、繁殖に向けて継続的に取り組む。	Ⅲ	Ⅲ	項目23（オオサンショウウオ調査） ・単独での調査が可能となり、日本産動物の生息域内保全の取組が開始できているという点は高く評価する。 項目25（研究発表） ・研究発表を数多く実施しており、高く評価する。今後は論文を数多く投稿することが、ステップアップにつながると考える。
					22	繁殖相手方の産卵（無精卵）のタイミングにあわせ、採精できるよう、オグロヅル（オス）の精液採取手技の確立に引き続き取り組むとともに、実際の人工授精を目指す。	Ⅲ	Ⅲ	
					23	オオサンショウウオ調査について兵庫県自然保護協会と連携して府内の調査に同行し、生息域内保全への取組の足掛かりとする。これに伴い、生息情報の蓄積と啓発活動を行い、府民の生息域内保全への理解を深める。	Ⅲ	Ⅲ	
					24	「地方独立行政法人天王寺動物園の調査研究の方針」で定めた重点領域である①動物繁殖生理学領域（種の保存）②動物行動学領域（動物福祉）③その他基礎研究領域（生物多様性）において、連携協定を締結した大学・機関、その他様々な組織と継続的に調査研究へ取り組む。	Ⅲ	Ⅲ	
					25	園内掲示、ホームページ等で共同研究実績や、取組段階でも可能なものについては発表し、知見の共有を図るとともに、当園の成果については研究会等で発表する。	Ⅳ	Ⅳ	
2 業務運営の改善及び効率化に関する事項	1	自律的な組織経営	B		26	引き続き法人の目指す姿を対外的に発信する。また、法人の目指す姿の実現に向け、職員の意識醸成等に継続的に取り組む。	Ⅲ	Ⅲ	
					27	法人の組織体制（外部の専門人材登用含む）について検討し、随時採用をはじめ柔軟に対応する。	Ⅲ	Ⅲ	
	2	人材の確保・育成と職員の能力向上・意欲喚起	B		28	必要に応じて人材育成方針及び計画の修正、資格取得支援対象資格の追加を行う。	Ⅲ	Ⅲ	項目全般（人材確保） ・人材の確保については、将来の組織運営にかかる重要な取組であるため、現状を分析してしっかり対応いただきたい。
					29	人材育成方針及び計画、提案型研修制度に基づき研修を実施する。多様化、複雑化に伴い内容が相互に関連、重複する研修については類型化のうえ体系的に実施する。	Ⅲ	Ⅲ	
					30	令和6年度に構築したインセンティブが働く評価制度について定着を図るとともに、制度の検証を行い、必要に応じて見直しを行う。	Ⅲ	Ⅲ	
	3	効果的・効率的な業務執行	B		31	年度計画及び中期計画の進捗状況について定期的に市と確認する。	Ⅲ	Ⅲ	
				32	人事財務システムの安定運用を図るため、操作マニュアルの更なる充実を進めるとともに、必要に応じてバージョンアップやワークフローシステムなどの新たなシステム導入を検討する。	Ⅲ	Ⅲ		

3	財務内容の改善に関する事項	1	収入の確保	B	・入園料収入は目標値に届かなかったものの、入園料外収入は、寄附付き入園券などの新たな取組の導入や開園110周年記念グッズ等の開発により、目標を上回った。 ・クラウドファンディングを実施し、積極的な広報活動により2ndゴールを達成することができた。 ・上記より、おおむね計画どおり進んだことから、B評価とする。	33	入園料収入5.3億円・入園者数181万人を目標とする。（令和7年度予算）	Ⅱ	Ⅱ	項目33（入園料収入・入園者数） ・入園者数の目標値については、猛暑や少子化の影響もあることから、安易に右肩上がりを想定せず、減少要因をしっかりと反映させた値を設定する必要がある。 ・目標には届かなかったが、猛暑などの減少要因がある中で、前年並みの入園者数を維持できているのは評価できる。 ・企業との連携は、収入の確保に有効であるため、継続するとともに更なる工夫も実施いただきたい。
						34	2回目のクラウドファンディングを実施する。	Ⅳ	Ⅳ	
						35	寄附額13百万円（ファンクラブ、クラウドファンディングを除く）を達成する。	Ⅳ	Ⅳ	
						36	園内事業者と連携しながらオリジナルグッズの開発と販売促進を行い、売上目標額23百万円を達成する。	Ⅲ	Ⅲ	
		2	経費の節減	B	・光熱水費の削減に継続的に努めるとともに、獣舎整備についても予算内で完了し、おおむね計画どおり進んだことから、B評価とする。	37	・ごみの排出量削減及びペーパーレス化に取り組む。 ・水道・電気使用量について、前年度（令和6年度）と比較・検証を行い、使用量節減の方策を検討・実施する。 ・これまでの包括施設管理業務委託（令和4年8月～令和7年7月）を踏まえ、次期（令和7年8月～）の発注を維持管理業務の効率化（例：紙管理⇒データ管理等）を考慮した内容に見直し、契約後実施する。	Ⅲ	Ⅲ	項目38（リニューアル工事） ・近年の物価高騰や労務単価の上昇を考慮すると、予算内で遅延なく整備が完了したことは法人の努力があったと考える。
						38	第一期リニューアル整備事業におけるアジアの森ゾーン（拡張）及びホッキョクグマ舎の整備費について、新たに不可避要因等の外部影響による増額が見込まれる場合は、内容や仕様の見直し等を行い、中期計画で定める予定額内で整備する。	Ⅲ	Ⅲ	
4	その他業務運営に関する重要事項	1	内部統制の強化	B	・継続して内部統制にかかる取組を実施しているほか、不適正事案の発生に際しても適宜対応し、再発防止策を講じており、おおむね計画どおり進んだことから、B評価とする。	39	内部統制委員会において、内部統制の整備及び運用に関する定期的な状況報告を踏まえ、必要な改善策を検討する。	Ⅲ	Ⅲ	
						40	リスク管理規程に基づくリスク管理を着実に実施する。	Ⅲ	Ⅲ	
						41	諸規程について必要に応じて見直しや整備を行うとともに、特に重要な規程（就業規則、職員倫理規程、契約規則など）については、全職員を対象とした研修を定期的に実施する。	Ⅲ	Ⅲ	
						42	コンプライアンス意識の浸透のため、研修のほか強化月間などの取組を継続して実施する。	Ⅲ	Ⅲ	
						43	個人情報取扱事務に関する重要管理ポイントが着実に浸透するよう、研修等で周知を図る。	Ⅲ	Ⅲ	
						44	内部監査・監事監査を実施するとともに、改善措置や不適正な事案等の発生を受けた再発防止策が講じられているかを随時監査において確認する。 また、市の監査結果における指摘事項が改善されているかも併せて確認する。	Ⅲ	Ⅲ	
						45	セキュリティポリシー、マニュアルの運用状況を適宜検証のうえ改訂を行うとともに、設立団体である大阪市と同等の研修を実施する。	Ⅲ	Ⅲ	

4 その他業務運営に関する重要事項	2	来園者の安全確保	B	・来園者の安全確保に向けて、継続して猛獣脱出訓練等に取り組んでおり、おおむね計画どおり進んだことから、B評価とする。	46	第一期リニューアル整備事業におけるアジアの森ゾーン（拡張）及びホッキョクグマ舎の工事が継続することから、工事に伴う事故が無いよう来園者及び職員の安全対策を実施する。	Ⅲ	Ⅲ	
					47	来園者と職員の安全確保及び安定した園運営の観点から、獣舎及び園内施設の定期点検を着実に行う。	Ⅲ	Ⅲ	
					48	令和6年度の実施結果により、より来園者の安全確保につながる効果的な猛獣脱出訓練として、シナリオを通知しない訓練及びあらたに想定される複数の動物逸走について机上訓練を実施する。	Ⅲ	Ⅲ	
	3	職員の安全衛生管理	B	・職員の安全・健康保持に向けた取組を継続して実施しており、おおむね計画どおり進んだことから、B評価とする。	49	安全衛生管理体制を確立するとともに、健診等も含め職員の健康保持のための取組を進める。	Ⅲ	Ⅲ	
	4	環境に配慮した取組の推進	B	・継続して環境に配慮した取組を着実に実施し、おおむね計画どおり進んだことから、B評価とする。	50	SDGsに関する園内での取組を拡充するとともに、企業等と協働しSDGsの取組を進める。	Ⅲ	Ⅲ	
	5	情報公開の推進	B	・財務諸表や年報のほか、第2期中期計画等について公開し、おおむね計画どおり進んだことから、B評価とする。	51	引き続き、法人に対する理解を深めてもらうよう、財務諸表や年報をはじめとする法人情報等の情報公開を推進する。	Ⅲ	Ⅲ	
	6	BCPの策定	B	・次年度以降のBCP改定にむけて検討しており、おおむね計画どおり進んだことから、B評価とする。	52	これまでの事案や令和6年度の状況を踏まえ、必要に応じてBCPの改定を行う。	Ⅲ	Ⅲ	

■全体評価

【市長評価】

全体として計画どおりに進捗したと評価できる。

特に、令和7年度末にマレーシアからゾウを導入できたことは大きな成果であり、8年ぶりの展示という園の魅力向上にとどまらず、繁殖に関する調査・研究など生物多様性保全に資する取組としても重要な意義がある。また、これに伴う獣舎の改修・拡充や準間接飼育法の導入などは、動物福祉の観点からも非常に重要である。

また、ゾウ以外の希少動物として、昨年6月にアムールトラを導入するとともに、トラ舎の充実に向け、令和3年度以来2回目となるクラウドファンディングを実施し、広報活動や受入れ方法の拡大など新たな取組を行った結果、2ndゴール（22百万円）を超える約24百万円を獲得したことは高く評価できる。

そのほか、調査研究を継続し、他園との知見共有を進めるとともに、生息域内保全・生息域外保全の取組を拡大できた点も評価できる。

イベントによる魅力向上の取組に関しては、開園110周年イベントを多数実施したほか、人気のホッキョクグマイベントでは、アンケート結果の分析を踏まえ新たな取組を実施したことで満足度をさらに向上させることができた。

加えて、物価や人件費が高騰する中で、計画どおりに「アジアの森ゾーン」及び「新ホッキョクグマ舎」といった大規模獣舎を、予算内かつ工期内で完成させたことは、法人の努力の賜物である。

また、少子高齢・人口減少社会が進展する中、持続的かつ安定的に天王寺動物園を経営するためには、人材の確保と人材育成は重要であり、資格取得支援制度の見直しなど、各種制度の見直しを行った。今後とも、計画的かつ柔軟に人材確保に努めるとともに、職員の意欲喚起につながるよう、制度・運用両面から検証・見直しを実施し人材育成の充実が図られることを期待する。

財源確保の面では、入園料外収入として、クラウドファンディングの実施のほか、寄附付き入園券等の新たな取組により目標を上回る寄附額を獲得できたが、入園料収入については猛暑などの影響もあり、上半期の入園者数が目標値に届かなかった。入園者数に関しては、原因の分析結果を踏まえ、今後どのように増加させていくか、具体策の検討を進められたい。

第2期における法人経営を持続可能な確固たるものにするため、法人は第2期中期計画を定めた。さらに、より具体的かつ計画的に取り組めるよう、マーケティングや営業戦略に精通した外部人材を登用し、ファンクラブ収入等収益源の多様化と安定化を目指した経営戦略を策定するとともに、地方独立行政法人の強みである柔軟かつ迅速な意思決定や実行力、組織内のコミュニケーションの一層の充実を目指した組織力向上計画、動物福祉に配慮した展示や来園者サービスの向上、緑化による快適な空間の形成や地球環境への配慮などを目指した施設整備計画を策定した。第1期の成果と課題を踏まえ、次期取組へ効果的に反映させ、引き続き「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指してほしい。

【評価委員会意見】

地方独立行政法人化から5年が経過し、法人の努力や蓄積してきたノウハウが成果として着実に表れている。特に、希少動物の導入や動物福祉に関する取組、各種研究発表等の実施については、市の評価と同様高く評価する。今後は研究の成果が論文の形になり実績が蓄積されていくことを期待したい。加えて、物価や人件費が高騰する中、また、獣舎整備は遅れることも多い中、大規模な獣舎整備を工期内・予算内に完了した点も、高く評価する。

一方で、人材の確保・育成については、現状を分析したうえで、計画的かつ確実に対応されたい。環境エンリッチメント及びハズバンダリートレーニングについては、取組の効果を検証しながら、動物福祉の質的向上に重心を置いて推進することを期待する。

また、市が法人の業務実績を評価するにあたっては、評価指標や目標設定の妥当性について今後も検討が必要である。